

◎ 忘れられた歴史の道

四寸道から高山不動尊

町田 尚夫

四寸道は高山街道とも呼ばれ、古くは熊野修験者が駆け巡り、近世には高山不動尊への参詣道として、更には峠越えの交易路として通行された。しかし時代の変遷により役割を終え、今では時折ハイカーが歩くだけの、忘れられた歴史の道である。冬枯れの一日、往時を偲びながら古道の面影を留める静かな道を訪ねてみた。

黒山行ききのバスを「火の見下」で降り、北ヶ谷戸橋の袂から龍穩寺へ通じる道に入る。南が開けた明るい集落の中を縫って次第に高度を上げると、背後に鼻曲山方面の山並みがせり上がっ

てくる。平らになると横吹峠で、西に登る堀割の道が四寸道の入り口である。

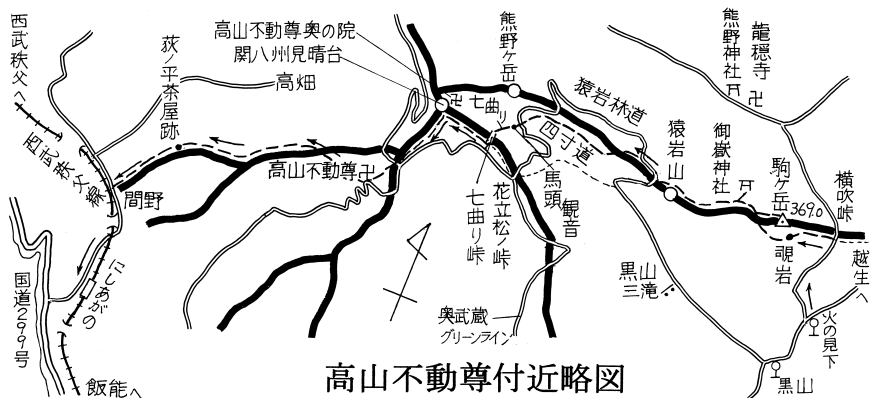
反対側に見える踏み跡を上がると、古い石地蔵が2体佇んでいる。1体は弘化四年（1847年）銘で道標を兼ね、台石に「高山」「龍ヶ谷」「さけと」などと刻まれている。これらは夫々、高山不動尊、龍穩寺、下ヶ戸薬師の方向を指し、横吹峠は参詣道の要衝であったことを示している。しかし林道工事の際に移設されて位置が合わない。その昔、行き交う人々を導いてくれたお地藏様も、今では通りから外れ存在すら薄れている。

元々の四寸道の起点は、東北約0・



御嶽神社の二つの大岩

7^キの下ヶ戸橋の袂であった。そこから下ヶ戸薬師を経て横吹峠に通じていたが、途中の採石場で分断され廃道となった。起点には文政二年（1819）銘の馬頭尊の石碑が遺されているが、県道の擁壁の上に隠れ気づく人は少ない。



高山不動尊付近略図

因みに「下ケ戸」は地名で、「懺悔堂」^{ざんげどう} 或いは「山下堂」^{やまのしたどう} の転訛だと言われる。本尊の木造業師如来立像は平安中期の作とされる古彫刻で、埼玉県文化財に指定されている。この像は黒山の熊野神社の本地仏と伝えられる。

横吹峠から四寸道に入り、深くえぐられたジグザグ道を登ると、梅ノ久保からの道が合わさる。やがて二つの岩の間を通り抜ける。この辺りの地名を「覗岩」という。覗きと言えば大峰山や両神山の修験者の行場が連想される。ここにも昔は大きな岩があったというから、同じような修行が行われていたのである。

緩やかに登ると稜線に出る。ここで369^{メートル}の三角点峰に立ち寄ってみる。戻るように東へ尾根を登ると、立ち木に「駒ヶ岳」の標識が付けられた四等三角点(点名黒山)があるピークに着く。木立に囲まれ、展望は余りない。

戻って西へ進むと、幅の狭い尾根道が現れる。『新編武蔵風土記稿』(入間郡龍ヶ谷村)に、「村内に秩父郡高山村

へ通ふ道あり、これを四寸道とよぶ、その幅狭くして馬の通はざるほどなる故、此名あるべし」と記す場所であるうか。

四寸道は山腹を絡むように続いていくが、寄り道して御嶽神社へお参りしよう。直進して急登すれば迂回してきた参道に短絡し、回りこんだ支稜の先端に御嶽神社が祀られている。東には大高取山方面の展望が開け、足元には龍ヶ谷から急な道が上がっている。

社前に三角形の2つの大岩が根を張り、その間がおよそ4寸(約12^{センチ})ある。奈良県の吉野山に連なる四寸岩山は、山頂付近の二つの岩と岩の間が四寸あるのが山名の由来だという。四寸岩山も四寸道も、共に熊野信仰に関わりがあることから、越生の郷土史に詳しいK氏は、この共通点が四寸道の呼び名の起りであろうと説いている。御嶽神社から戻り四寸道に入る。長年にわたり歩き込まれた道はほぼ一定の傾斜を保ち、余り労することなく高度を上げていく。猿岩山の肩を過ぎる

と突如林道に出る。ここから林道を右に進み、約200メートル先を左の尾根に入るのだが、少々分りにくい所だ。

529メートル峰の南側に出ると、展望が一気に開ける。前方に花立松ノ峠と関八州見晴台を結ぶなどらかな稜線が眺められる。再び猿岩林道に出ると、断ち切られた尾根の鼻が現れる。ここで道は二手に分かれ、修験の道は尾根通しに登り、四寸道は中腹を伝って行く。しかし林道開削により四寸道は通行不能となり、しばらくは林道を歩くしかない。

尾根通しの道を行けば、途中の嶽岩(熊野ヶ岳)と呼ばれる岩峰に「武蔵琴宮」と彫られた石碑があるという。『武蔵国郡村誌』(入間郡黒山村)に熊野ヶ岳は、「甚嶮なり絶頂上に金毘羅の小祠あり俗に嶽岩と称す一説紀州熊野の宮を最初此嶽に移し夫より熊野ヶ岡に転せしと云」とあり、ここにも熊野修験との関わりが認められる。

これに興味がわいた。ついでに嶽岩に登ろうと尾根に上がり、急登すると

岩峰に突き当たった。左回りに行けそうだが足場が悪く、先が見えないので他日を期して撤退した。

林道に戻り、宗ヶ入を経て七曲りに向かう。入り口は目立たないので、注意しないと見過ごしそうだ。中へ進むと様相は一変し、両側を岩壁に囲まれた涸れ沢の底を登る険しい道になる。これこそ四寸道の難所であり、霊域とされた核心部である。

やがて岩上に馬頭尊の石像が現れる。「寛政十年(1798年)施主岩田権之進」の銘がある。前の断崖は「隠れ不動」と言われ、光線の状態により火焰を背負った不動尊の姿が映し出されることがあるという。それも信心深い人にだけ見えるというから不思議だ。

七曲りの名に違わない、曲折した道を登り詰めると稜線に出る。宗ヶ入を隔てて北側には、嶽岩からの尾根が急傾斜で奥武蔵の主稜に突き上げているの見える。中腹を巻いて進むと、花立松ノ峠からの道と交差する七曲り峠に着く。四寸道は直進して下り高山不

動尊に至るが、右折して尾根伝いに奥ノ院に向かう。

登り着いた760メートル閉曲線の山頂は展望が良く、関八州見晴台と呼ぶ人気スポットで、いつもハイカーで賑わっている。かつては関場ヶ原(勸定ヶ原)と呼ばれ、堂宇が立ち並んでいたと伝えられるが、今は高山不動尊奥ノ院の小堂が置かれているだけである。

南へ下り、林道を2度横切って高山不動尊に着く。高山不動尊は、白雉五年(654)開山と伝える古刹で、成田不動、高幡不動とともに関東の三大不動の一つに数えられる霊場である。本尊はヒノキの一木造りの軍荼利明王立像で、国の重要文化財に指定されている。

五間四面の壮大な不動堂は、密教寺院の特色を持つ江戸後期の建築で県文化財に指定されている。境内にある樹齢800年の大イチョウは、垂れ下がった木根の形から「子育てイチョウ」と呼ばれ、県指定天然記念物である。高山不動尊からは、ポピュラーなコ

ースを西吾野駅に向かう。萩ノ平茶屋跡を過ぎ、間野で北川林道に出れば駅は間近である。

(09年2月15日(日)ほか歩く)

*参考資料

『越生の歴史』(越生町教育委員会)

●コースタイム

越生駅⇨バス25分⇨火の見下 15分⇨横吹峠 25分⇨駒ヶ岳 15分⇨御嶽神社 20分⇨林道 30分⇨林道 10分⇨七曲り入口⇨20分⇨七曲り峠 15分⇨関八州見晴台⇨20分⇨高山不動尊 50分⇨間野 20分⇨西吾野駅

●費用

池袋⇨越生	東武	700円
越生駅⇨火の見下	バス	340円
西吾野⇨池袋	西武	610円

●問い合わせ先

川越観光バス 0493-56-2001

●地図

越生 正丸峠 (2万5千)
東京 (20万)



高山不動尊奥ノ院



七曲りの馬頭尊